フリガナ	アサオ　トシキ		学部　学科など	生物資源科学部 農業生産学科
氏　　名	**浅尾　俊樹**		職　　名	教授
			講　座など	生産技術管理学講座
専門分野	・野菜・花卉園芸学 ・施設園芸学	その特徴	施設内での野菜や花の生産技術の開発	
研究テーマ	**・『野菜や花の自家中毒に関する研究』** **・『環境保全型養液栽培の開発』**	その特徴	・根から出される**アレロパシー物質（自家中毒）**を**連作障害**の一因として捉え，**その回避方法**の開発を行う． ・廃液を出さない**閉鎖型養液栽培**を構築していく際，課題となる培養液中の**自家中毒物質の除去法**等について検討する．	
可能な共同研究・地域連携	**・テーマ・項目：**野菜や花の生産に関する研究，水耕法の開発 **・要望事項：**水耕法を使った実験系			
可能な科学技術相談	**・項目：**水耕			
キーワード	アレロパシー（自家中毒），水耕，野菜・花			

＊　研究のポイント

野菜や花の生産現場では連作障害が大きな課題で，その一因として根から出るアレロパシー物質による自家中毒に注目している．その回避法として，活性炭添加や接ぎ木，微生物利用などを検討している．また，自家中毒は環境保全を目指した閉鎖型養液栽培を開発する際に大きな課題となる．培養液をリサイクルする場合に培養液中にアレロパシー物質が蓄積し，自家中毒を起こす可能性がある．これら自家中毒の原因について検討するだけではなく，その回避法を開発することは生産現場での連作障害の回避と,今後とも注目されていく閉鎖型養液栽培の開発に大きく貢献するものと考えられる．また，その際に企業として製品化につながる開発部分が多く含まれていると考えられる．

水耕は土耕と比べて環境が単純化され，実験法としてもすばらしいものである．また，実際の野菜や花の生産においても管理しやすい栽培方法である．農業が抱える問題である肥料や農薬による環境汚染も水耕によって回避できる可能性が高い．そして，今後，「食の安全性」ということで安全で高品質な野菜や花の生産が望まれていく．その際に水耕という栽培様式は大いに貢献する．

水耕でできること．その特徴を生かした食糧生産．
水耕だからできること．そのような研究・開発をしていきたい．

農業とはかけ離れた分野からの技術，それだけでは製品化できない技術も水耕なら活かせるかもしれません．
それを検討できる場が当研究室にはあります．

過去３年間の実績
- **筆頭著者論文・・・８編**
- **特許申請・・・・・３件**

連絡先　Tel　0852-34-1817　Fax　0852-34-1817　E－Mail　asao@life.shimane-u.ac.jp